

GIGA スクール構想「新温泉町モデル」事業実施要項

新温泉町教育委員会

1 新温泉町における教育的課題

- (1) 少子化による学校の小規模化から、子どもたちの多様な個性を持つ他者との関わりの方が少なくなっている。
- (2) 学校の小規模化による教員の減少のため、教員同士の相談・研究・協力が行いにくくなっており、また、授業改善を核にした町内での学び合いのコミュニティも不足している。
- (3) ふるさとに根付く人材を育成するため、ふるさと教育の一環として、地域の産業、自然環境、文化などの地域資源（ヒト・モノ・コト）を活用した教育の推進をしていく必要がある。
- (4) Society5.0 の時代を生きる子どもたちにとって、教育における ICT を基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められている。

2 GIGA スクール構想「新温泉町モデル」でめざすもの

◎本町の課題克服に向け、ICT を活用しての学校改革を推進する。

- (1) ICT を活用しての問題解決型学習により、子どもの創造性を育む。
- (2) ICT を活用しての遠隔（合同）授業の推進により、子どもたちに「多様性への寛容さ」を育て、「ヒト・モノ・コト」との関わりや経験を増やす。
- (3) 教職員のオンライン研修を推進し、学校間を超えて、教員の授業改善に向けた教員の学び合いのコミュニティを創る。

3 GIGA スクール構想「新温泉町モデル」事業

- (1) 期 間
令和3年度～令和4年度
- (2) モデル校を指定して先進的研究を行い、令和5年度以降、町内全小中学校で『GIGA スクール構想「新温泉町モデル」』を実践推進する。
- (3) 研究の内容
 - ア GIGA スクール構想における ICT 機器の効果的運用に向けた研究
 - イ ICT を活用した教員の遠隔合同研修の推進に係る研究
 - ウ ICT を活用しての遠隔（合同）授業の推進に係る研究
- (4) 学識経験者として、環太平洋大学次世代教育学部教授 長谷浩也氏に教育アドバイザーを委嘱し、事業推進に主に次の点についての指導助言を受ける。
 - ア GIGA スクール構想における ICT 機器の効果的活用に向けての助言
 - イ ICT を活用した遠隔（合同）研修の推進に係る助言
 - ウ 遠隔（合同）授業を実施する上での配慮点等の助言

4 事業の年次計画

| 年 度 | 事 業 の 内 容 |
|-------|---|
| 令和3年度 | <p>1 目標 GIGA スクール構想の実現に向けての教員の意識改革及び情報機器活用スキルの向上</p> <p>2 研究内容 (1) 1人1台の端末を活用した授業 ～授業改善 (2) 遠隔システムを活用した合同校内研修 ～教員の学びのコミュニティの創出</p> <p>3 教育アドバイザーの活用 学期1回（年3回）招聘し、モデル校への指導助言をしていただく</p> |
| 令和4年度 | <p>1 目標 「GIGA スクール構想『新温泉町モデル』」の作成</p> <p>2 研究内容 (1) 1人1台の端末を活用した授業の継続実践 ～授業改善 (2) 遠隔システムを活用した合同校内研修の継続実践 ～教員の学びのコミュニティの創出 (3) 学校間をつなぐ遠隔合同授業 ～子どもの多様な思考、伝え合いを促す教育環境の創出</p> <p>3 教育アドバイザーの活用 (1) 学期1回（年3回）招聘する。 (2) 1学期、2学期はモデル校への指導助言をしていただく (3) 3学期は、『次世代教育「新温泉町モデル」』のまとめ作業に指導助言をしていただく</p> <p>4 「GIGA スクール構想「新温泉町モデル」」の内容及び活用 (1) 内 容 ア GIGA スクール構想でめざす新温泉町の教育 イ 1人1台の端末を活用した授業プログラム ウ 遠隔合同授業プログラム エ 遠隔システムを活用した校内研修の進め方 オ 2年間の事業における実践例の紹介 (2) 活 用 ア 町内小中学校への配布 イ 管理職、教員への説明会の開催 ウ 令和5年度以降、各校で「新温泉町モデル」を実践する</p> |